１２．大学として取り組んでいる連携事業

12.1　北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プラン

実施団体名

がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン(先進的医療イノベーション人材養成事業)

：金沢大学、金沢医科大学、福井大学、富山大学、石川県立看護大学

概要

高度ながん医療、がん研究等を実践できる優れたがん専門医療人を育成し、わが国のがん医療の向上を推進することを目的とし、北陸では金沢大学、石川県立看護大学、金沢医科大学、富山大学、福井大学が申請し「北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プラン」として平成24年度に採択された。全国で 15 拠点が採択されている。本事業の特徴は、北陸地区における医科系 4 大学（金沢大学、富山大学、福井大学、金沢医科大学）と、看護系１大学（石川県立看護大学）より構成され、スキームは、①がん教育改革（本科８コース)、②地域がん医療（インテンシブ 11 コース)、③がん研究者養成（本科 2 コース）より構成されている。①教育改革については、IPE によるチームマインド養成カリキュラム、多職種連携によるチーム医療のリーダー養成カリキュラム、医科系大学連携による単位互換制度を特徴としている。②地域がん医療については、能登北部地区等の医療過疎地域を拠点とした地域がん医療研修、インテンシブコースによる地域がん医療の指導者養成、がん専門医の地域定着を狙いとするコースを設けている。地域がん医療に貢献できる看護師養成コースを設け、地域看護の活性化、休職中看護職復帰へ繋げている。③研究者養成については、国際機関連携教育、卒前・卒後一貫教育、MD-PhD による学部・大学院一貫教育による高度な研究能力を有するがん研究者養成を図ることである。

12.1.1　がんプロ企画委員会

委 員 長：牧野智恵　教授

委　　員：石垣教授（学長)、吉田教授(研究科長)、今井教授、松原教授、彦准教授、
岩城准教授、浅田特任助教、松田教務学生課長（～H27.9)、
塚本課長補佐（H27.10～）

事 務 局：田淵主事

活動内容：

１．本科生（がん看護専門看護師）の育成の検討

１）昨年度から、共通科目Ｂ（指定履修）6 単位と「がん看護学実習Ⅲ」4 単位を追加し、38 単位履修による教育を開始した。それに伴い、臨床薬理学、フィジカルアセスメント、病態生理学の強化、実習内容の強化（医師とのカンファレンスの実施による診断技術の強化）を行った。今年は、3 名が修了し、1 名の大学院生が入学した。

２）がん看護専門看護師として、国際的知識・技術の習得のため、緩和ケア発祥の地であるカナダを訪問した。がんプロ本科生・修了生（7 名)、その他県外の CNS など（7 名）を

含め、13 名が参加した。

２．北陸 3 県の看護師へのがん看護に関する知識・技術の普及

１）インテンシブコースによる育成内容の検討・評価の実施

以下の 4 つのコースへの募集および成績判定を行った。

＜インテンシブ A コース＞

本科生を修了した者へのがん看護専門看護師受験をサポートするために、インテンシブ A コースを実施している。本コースは 3 名であった。

＜地域がん看護師養成コース＞

地域がん看護師養成コース 1 は、大学院での科目履修を目的とするもので、今年度は、申請者はいなかった。地域がん看護師養成コースⅡは、大学院への入学は予定していないが、最新のがん看護の知識を得たい人を対象としたものである。毎月 1 回実施しているテレビ会議システムによる事例検討の後、がん看護専門看護師によるミニレクチャーをのさんかを義務づけている。沿革の施設にいながらにして、事例の検討に参加し、他施設のがん看護の実践の様子を知ることができ、がん看護実践における知識や思考を支援している。今年度は、6 名の看護師が参加した。

＜地域がん看護活性化コース＞

何らかの事情で現在休職あるいは退職している看護師を対象にしたコースで、がんプロ主催の公開講座や事例検討会などに参加することを通して、現在臨床で行われている様々な問題を聞き、再就業へのバリアを解消し、再就業しやすい環境を整えることを目的としたもの。今年度は、8 名の看護師が申請した。

２）「リンパ浮腫ケア症状マネージメントを学ぶ」研修の企画・評価

今年度は、京都大学医学部附属病院のがん看護専門看護師を講師として招き、8 月 22 日、本学成人看護学実習室にて実施した。54 名の看護師が参加した。概ね満足の評価が多かった。

３）公開事例検討会の企画・評価

本学地域ケア総合センターとの共同企画で、「多領域の専門看護師による公開事例検討会」を開催した。

今年度は、進藤喜予氏（東大阪市立総合病院　緩和ケア内科長）と、5 名専門看護師（がん 2 名、老人 2 名、精神 1 名）をお招きし、9 月 23 日(水・祝)に本学大講義室にてて実施した。44 名の県内外の看護師、専門看護師が参加し、内容に「大変満足・満足」していた参加者は 90%を占めていた。

４）FD・SD 研修会の企画・評価

11月1日(日)本学大講義室にて、「がん経験者の在宅生活を支える　～能登地区の在宅における看取りの実際から～」と題して、研修会を実施した。講師には、秋山正子氏（株式会社ケアーズ白十字訪問看護ステーション統括所長）と、能登地区の医師1名、看護師2名をお呼びした。1部では講義、2部ではパネルディスカッションを行い、能登地域でのがん患者の在宅を支える上での課題について意見を出し合った。当日はおよそ108名の医師、看護師、がん体験者が集まった。90%以上の参加者が「参考にな

った・とても参考になった」の評価であった。

３．各企画のアンケート内容の検討・評価

上記各コースおよび企画を実施後は、参加者からのアンケート集計を行い、次年度に向け評価を行った。リンパ浮腫ケア研修は、がんプロ事業によって知識・技術の普及も高まっていることから参加者が減ってきている。来年も1日実施とすることを決めた。また、公開事例検討会については、来年度も多領域の看護専門看護師との企画を検討していく予定である。ことを検討した。

12.1.1.1　がんプロ運営委員会

委 員 長：岩城直子　准教授
委　　員：金谷講師、子吉助教、寺井助教、川端助教、松本助教、浅田特任助教
事 務 局：田淵主事
活動内容：

１．本学「北陸高度がんプロチーム養成基盤推進プラン」内容の実施

１）「リンパ浮腫のケアについて―予防から発症初期までの看護介入を中心に―」の準備・実施・アンケート集計

平成 27 年 8 月 22 日(土) 開催に向け準備、実施、アンケート集計を行った。参加者は 53 名で、北陸 3 県全てから参加があった。参加者の多くは、リンパ浮腫患者と接する機会が多い病院勤務や訪問看護ステーションに在籍する看護師、作業療法士であった。アンケート結果から、「わかりやすい」内容であり、受講者の満足度も高く、リンパ浮腫ケアに関する自己評価も上昇する傾向であった。

２）「多領域の専門看護師による公開事例検討会」準備・実施・アンケート集計

本学地域ケア総合センターと共同で、平成 27 年 9 月 23 日（水・祝）開催に向け準備、実施、アンケート集計を行った。多領域の CNS のアセスメントの視点や、他施設のスタッフの意見が参考になったとの意見がみられ、参加者は看護実践に活かせると回答していた。

３）「がん体験者の在宅生活を支える―能登地区の在宅における看取りの実際から」FD・SD 研修会の実施、アンケート集計

平成 27 年 11 月 1 日(日)の開催に向けて準備、実施、アンケート集計を行った。多職種（医師、看護師、介護福祉専門員等）108 名の参加であった。講演会とパネルディスカッションの満足度は高く、具体的な事例や地域力の重要性についての意見が聞かれた。

４）「がんになったら仕事を辞めざるを得ないのか！？」市民公開講座の実施、アンケート集計

平成 27 年 11 月 29 日（日）開催に向け準備、実施、アンケート集計を行った。参加者 58 名。講演、疑似体験・ロールプレイでの評価は、現場で活かしていけるとの意見も見られ、「参考になった」と答える人が 85～95%以上という結果であった。

<u>外部資金</u>

研究拠点形成費等補助金（がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン）連携大学の分担金
6,106 千円

12.2　大学間連携共同教育推進事業 ―ヒューマンヘルスケア人材育成プロジェクト―

実施団体名

大学間連携共同教育推進事業「学都いしかわ課題解決型グローカル人材育成システムの構築」石川県における高等教育機関 19 の大学・短期大学・高専（大学コンソーシアム石川加盟校）統括本部は金沢大学が所掌。

概要

平成 27 年度、石川県立看護大学は、大学間連携共同教育推進事業の実施のため学内委員会（委員 9 名、事務局 1 名にて構成）を設置し、本格稼動 2 年目の事業として民泊型フィールド実習、海外研修（韓国全北大学校）に取り組んだ。民泊型フィールド実習は、能登町教育委員会との協議に基づき、能登町の柳田地区（柳田公民館）、宇出津地区（高倉公民館）、内浦地区（白丸公民館）3 地区において民泊型フィールド実習を展開した。また、グローバルな視野を広げるために保健・医療・福祉系の大学で学ぶ学生向け海外研修は、韓国全羅北道庁、全北大学校の協力・支援の下、実施できた。

活動内容

１．民泊型フィールド実習

１）フィールド実習オリエンテーション：

4 月当初、フィールド実習の目的や方法について学内でオリエンテーションを実施、学生はオリエンテーション内容を聞き、希望する実習先を選択する。その結果、能登町における民泊型フィールド実習を 22 名の学生が主体的に選択した。

２）能登町の概要等を知る：

4 月 25 日（土）午前、地域の特色を学ぶため、「能登町の概要と世界農業遺産を活用した町の取り組み」と題して能登町企画財政課係長吉田源一郎氏と西谷幸一氏から講義を受けた。その後、質疑応答・意見交換を行った。参加者は学生 22 名、教員 7 名。能登町の概要をパワーポイントならびに DVD を用いた能登町の人口・高齢化率をはじめとした人口動態に加え、産業、観光、伝統・文化などの講義内容は、学生の能登町に関する理解を深めることに有効であったと考える。

３）能登町の視察：

同日午後、実習先となる能登町の 3 地域まで大型バスにて移動し、地区の公民館を拠点にフィールド探索し、公民館長等から地域に関する概要について講義を受けた。この日の体験に基づいて 6 月の民泊型フィールド実習の活動計画の立案に生かすことになった。実習計画を立案し、公民館の館長・主事等の助言を得た。民泊先は、公民館の協力によって各地区の家庭を推薦頂いた。

４）3 地区における民泊型フィールド実習の実施：

(1) 日時：平成 27 年 6 月 17 日～19 日の 2 泊 3 日

(2) 場所：①柳田公民館と地域の住民宅（民泊）
②高倉公民館と地域の住民宅（民泊）
③白丸公民館と地域の住民宅（民泊）

3 地区に分かれて、「地域を知る」取り組みを実施した。主な実習体験は次の表の通りである。

民泊型フィールド実習における各地区の民泊先での実習体験

柳田地区：4 家庭	高倉地区：4 家庭	白丸地区：3 家庭
①地区の暮らしに関する講話 ・農家、高齢者世帯の暮らし ・特色ある地域行事や伝統 ・生活上の工夫や知恵 ②調理実習も含む、夕食と朝食での交流 ・伝統的な料理、地産のものを活かした料理について ・保存食の作り方と活用 ③農産物の収穫体験 ・ブルーベリーや梅の収穫 ④柳田地区の自然鑑賞、地域散策の引率 ・蛍鑑賞など	①　地区の暮らしに関する講話 ・漁業を中心とした生活内容 ・買い物や交通の便、 ・医療機関へのアクセス ・地域住民の助け合い ・防災について ・祭りなどの地域行事　など ②夕食と朝食の調理実習 ・魚の鮮度の見極め ・魚のおろし方を教わる ・魚料理の仕方（煮魚、焼き魚、つくり） ③各家での生活習慣 ・神仏へのお参りやつながり ・農作業・魚釣り　など	①食を中心とした暮らしの講話 ・主な農産物 ・他の食料の調達方法 ・地域住民同士のつながり（日常的なつながりや祭りまで）における食の役割について ・季節による食生活の違い ②　夕食と朝食の調理実習 ・特産物、調理方法、盛り付け方、食器など、その実際 ・調理、食事を共にすることでの人間関係の形成 ③　各家での日課、生活習慣 ・実習時における日課、暮らしぶりの実際 ・季節による変化

5）民泊型フィールド実習の成果報告会：

(1)日時・場所：平成 27 年 7 月 23 日（木）9:00～12:10　石川県立看護大学大講義室

(2)参加者：1 年次学生 84 名、3 年次編入学生 6 名、教職員約 30 名

(3)各地区の報告のテーマ：

①　柳田地区　「柳田地区の方々の暮らしと健康サポート」

②　高倉地区　「漁業を営む方々の生活や健康状態について」

③　白丸地区　「能登町白丸地区における食の意味」

6）各地区との交流継続：

能登町の白丸地区の祭礼や公民館イベントへの学生参加、柳田地区の住民健康調査等を継続実施している。

2．韓国全北大学校における海外研修

大学間連携共同教育推進事業の中でグローカル人材育成においては、保健・医療・福祉系大学の学生向けのプログラムが必要と考え、「地域保健医療体制を学ぶ」研修を企画・提案した。

今年度は 8 月下旬から実施予定であったが、韓国国内に MERS 感染の流行が見られ、参加者が辞退となり、実施できなかった。12月には追加感染の恐れなしとの宣言も出され、韓国全北大学校から受け入れ可能との連絡を頂いた。協議の結果、3 月末に 7 日間の短縮プログラムで受け入れ可能となり参加者を再募集したところ、学生 11 名（石川県立看護大学）の申込みがあり、2 名の引率教員、1 名の一般参加を得て、実施可能となった。研修スケジュール・内容は表の通りである。

韓国全羅北道・全北大学校看護大学　研修
2016. 3. 20～2016. 3. 27

			AM	PM	宿泊
1	3月20日	日	9:45集合：小松空港発12:00→仁川空港14:05→全州市19:30		全北大学校宿舎
2	3月21日	月	全羅北道庁表敬訪問 全北大学校視察	全北大学校　学生との交流 講義（韓国の看護教育・健康課題と対策）	全北大学校宿舎
3	3月22日	火	文化施設等視察	保健所等視察	全北大学校宿舎
4	3月23日	水	高齢者保健福祉施設視察	保健診療所等視察	全北大学校宿舎
5	3月24日	木	母子保健福祉施設視察	医療関係施設視察	全北大学校宿舎
6	3月25日	金	文化施設等視察	全州市→ソウル市	ソウル市内ホテル
7	3月26日	土	ソウル市内歴史・文化施設視察		ソウル市内ホテル
8	3月27日	日	仁川空港発9:05→小松空港10:50		

３．石川県立看護大学におけるグローカル人材育成の実績

石川県立看護大学の４年次学生３名が修了証を申請したところ、全員修了が認められた。

外部報告

１）いしかわグローカル人材育成サミット in 七尾

２）大学間連携共同教育推進事業　平成 27 年度事業報告書

外部資金

大学改革推進等補助金（大学間連携共同教育推進事業）　912 千円

12.3　大学コンソーシアム石川関連事業

12.3.1　いしかわシティカレッジ「地域と災害（基礎および実践）」

講師

武山雅志（学生等災害ボランティアリーダー育成事業研究会会員）

概要

平成 27 年度シティカレッジ前期科目として「地域と災害（基礎）」と「地域と災害（実践）」を開講した。「地域と災害（基礎）」には 14 名の受講生があり、７回の講義を実施した。「地域と災害（実践）」には 11 名の受講生があり、宮城県石巻市における実践活動を実施するとともに最終回には「きずなフォーラム」を開催し、実践活動の振り返りを兼ねて発表を行った。

外部報告

「地域と災害（基礎）」と「地域と災害（実践）」の活動内容については当研究会の他事業と併せて「平成 27 年度学生等災害ボランティアリーダー育成事業活動報告書」としてまとめた。

外部資金

本講座の非常勤講師謝金は石川県公立大学法人と大学コンソーシアム石川および公益財団法人石川県県民ボランティアセンターの間の委託契約に基づいている。

12.4　能登キャンパス構想事業

実施団体名

能登キャンパス構想推進協議会：

石川県、金沢大学、石川県立大学、石川県立看護大学、金沢星稜大学、珠洲市、輪島市、能登町、穴水町

概要

高等教育機関のない奥能登地区をキャンパスと捉え学びの場とすることで能登の活性化（交流人口の拡大や若者の移住・定着等）を目的とした能登キャンパス構想推進協議会に本学が正式加盟して 3 年目である。本協議会は、石川県(能登半島地震復興基金)、上記４大学、奥能登 2 市 2 町が出資して運営している。

活動内容

１．協議会・幹事会への出席：

協議会は年 1 回（副学長、副市長相当の役職者)、幹事会は年 10 回開催

協議会で能登キャンパス構想推進協議会の翌年度の運営方針を審議・決定し、幹事会が実施する。

２．能登の課題解決プログラム（ワークショップ）への学生参加：

本事業の目的は、奥能登の抱える共通の課題である移住促進に関し、学生がワークショップ形式で取り組み、成果報告を行うことである。

活動内容は、以下のようなものである。①奥能登 2 市 2 町へ移住した方を対象とした移住に関する調査、②調査結果のまとめと分析、③活動前後における地域で活躍したいという学生の意識の変化の比較。活動期間は、8 月夏季休業開始後から 10 月 17 日成果報告会までの約 2 ヶ月間である。石川県立看護大学からは 3 年次学生 1 名が自発的に応募し、活動を行った。

学生は、活動の成果を平成 27 年 10 月 17 日に、のと里山空港 4 階会議室 A において開催された**「能登の課題解決プログラム活動報告会」**で発表した。

石川県立看護大学は本事業の参加をヒューマンヘルスケア科目 1 単位分として認定した。

３．能登「祭りの環プロジェクト」2015 への参加：

石川県立大学と石川県立看護大学、金沢大学合同で珠洲市三崎町粟津「粟津の秋祭り」（平成 27 年 9 月 12～13 日）に総勢 19 名の学生が参加した。引率教員は 2 名である。奥能登珠洲の祭りでは神輿のお供といえば「太鼓山（たいこやま)」、消滅しつつある能登の祭りの原点である太鼓山に導かれた神輿とキリコが町内を巡行する、地域住民と交流しながら共に祭りを体験した。

外部報告

該当なし

12.5　地(知)の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）

実施団体名

（参加大学）金沢大学、金沢工業大学、石川県立看護大学、石川県立大学、金沢星稜大学、
北陸大学、金沢学院大学、金城大学、（協力大学）7 校

（自治体）石川県はじめ県内すべての自治体 20

（企業・団体）企業・団体 18

概要

本事業は文部科学省が募集した地(知)の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）に金沢大学が中心となって応募した「金沢･加賀・能登で地域思考型教育による夢と志を持つ人材育成」が採択された。本事業の目的は、地方創生の鍵となる若者の定着と産業と地域の活性化をめざし、グローバルな視点で地域を思考できる学生を育成し、地方創生を担う次世代の人材の輩出、また、地域関係機関（企業・自治体等）と連携した雇用創出を含む地域定着モデルの構築である。平成 31 年度までに石川県内の学生の就職率 10%向上、うち 10%は起業等による雇用創出をめざす数値目標を掲げている。

活動内容

１．地域創生概論の受講準備：

本学の COC+担当教員と教務委員会委員長、事務局担当者が、今後、作成される ICT 教材「地域創生概論」を授業での活用、単位認定等につなげるための方略について審議・意見交換を行った。

２．テレビ会議システムの導入準備：

参加大学間をテレビ会議システムでつなぐために本学の対応方針や準備について検討を行った。

３．石川県立看護大学における卒業生・修了生の地元定着や起業等に関する支援：

石川県立看護大学の卒業生・修了生の80%近くが地元に進学・就職する現状である。これ以上の就職率アップには貢献できないが、現状の維持ならびに将来起業する人材、地元で働き続ける看護職の支援については今後の検討課題である。過疎地や僻地で働く卒業生等を招いて仕事の魅力と課題について語ってもらう機会を設け、理解を深める方向性が出された。

また、本事業で重視している地元石川県の歴史や文化、産業、暮らしなどに関する理解を深め、魅力を再発見し語れる人材を輩出するために、本事業の効果的な活用についても検討が必要である。

外部報告

該当なし

外部資金

大学改革推進等補助金（地（知）の拠点大学による地方創生推進事業）　1,125 千円